



川上教育長

行政方針 教育

昨年度、政府は教育改革推進計画の中で、地方自治体においても「いじめ防止基本方針」や「いじめ防止対策推進法施行条例」を制定した。さらに少子化の進行で運営児童問題の対策として「子ども・子育て支援事業計画」をはじめ関係条例の制定をした。

また「教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が改正された。大きくは教育委員長と教育長が一本化され「教育長」になることによって責任体制を明確にした。本来、教育委員会は「政治的中立の確保」から首長と教育委員会は一線を画してきた。

今回の改正で首長が教育委員と教育行政について議論を進める場が確保された。「にじいろ園」「さくらんぼ園」は平成26年度に職員を増員して園児への早期の対応が出来るようになつたが、保育士や幼稚園教諭の有資格者が不足している。

平成27年度は「親育ち」を目的とし保育者体験事業や懇談会・家庭訪問等に取組む。出産や育児に不安を抱える保護者との関わりを持ち健全な子育てができる支援体制を築きたい。

道徳授業だけでなくキャラクターアクションとあわせ学校全体のレベルの底上げを図つていただきたい。学力の定着には基礎問題・活用問題に課題がある。「昨年より『津野っこ夢プラン』と題して問題解決型授業への改革に取り組んでいる。また、教育センターに一名を出向させ1年間の研修を予定している。

文化活動については町内文化団体による秋の文化祭や舞台発表会等の支援を行なっている。

葉山中学校卒業生は39名全員、東津野中学校も20名全員が進学希望をしている。

せ1年間の研修を予定している。

東区の0歳～5歳の乳幼児数は149名で「にじいろ園」入園予定園児数は130名。西区の0歳～5歳の乳幼児数は76名で「さくらんぼ園」入園予定園児数は60名。

小・中学校の課題としては他人の心や気持ちを理解すること・命を大切にすること・生きることについての目的意識を持つことや社会常識を持つこと等「人と会して、また人間として育てること」が重要であると考へている。自己肯定感を高めながら「ふるさと津野町」に対して誇りを持たせ「学習の意義」を理解させている。規律や生活態度についても向上してきている。

高齢者の生涯学習としては生きがい活動や教養を高める活動を推進する。また、一般町民への生涯学習講座も実施していく。

葉山中学校のプールは全国的な校舎の耐震整備が優先されて今年度の整備ができない。

いじめ問題について各校とも現在は無いと報告を受けている。不登校とされる年間30日以上の欠席者は小学校に一名、不登校に準ずる生徒は2中学校で三名在籍している。

今年は新たに地域の文化財や伝統芸能の存続・継承をしていく。四万十川流域文化的ガイダンス施設として「吉村虎太郎生家」が完成する。津野町の歴史の顕彰や学習に生かしていきたい。